



円相場が一段高 一時154円台前半 2カ月ぶり高値

24日午後の東京外国為替市場で、円相場が一段と上昇している。14時時点では1ドル=154円57～59銭と前日17時時点と比べて1円46銭の円高・ドル安だった。14時すぎに円は一時154円36銭近辺まで買われ、5月16日以来およそ2カ月ぶりの高値をつけた。日米の金融政策変更で金利差は縮小に向かうとの見方がくすぶっており、これまで積み上がった円売り・ドル買いの持ち高を解消する動きが加速している。

24日午後に日経平均株価が下げ幅を400円あまりに広げるなど日本株は調整色を濃くしている。投資家心理が悪化するとして、株安に歩調をあわせる形で「低リスク通貨」とされる円には買いが増えた。円相場が7月の高値（155円38銭）や100日移動平均（155円台前半）などの節目を突破したことも円買い・ドル売りに拍車をかけたようだ。

円は対ユーロでも大幅高となっている。14時時点では1ユーロ=167円68～71銭と同2円02銭の円高・ユーロ安だった。14時すぎには167円45銭近辺と約2カ月ぶりの円高・ユーロ安水準をつける場面があった。



原油が一段安、円上昇で割安感薄れる 白金も下げ幅拡大

24日午前の国内商品先物市場で、原油が一段安となっている。11時30分時点で取引量の多い12月物は前日の清算値に比べ1440円安い1キロリットル7万4110円だった。寄り付きは1130円安だった。一時は7万3920円まで下げ、取引量の多い限月として約1カ月半ぶりの安値をつけた。東京外国為替市場で円相場が上昇し、円建てで取引される国内原油先物の割安感が薄れるとの見方から国内原油先物に売りが出ている。米国は夏のドライブシーズンに伴うガソリン需要期にあるだけに、米エネルギー情報局（EIA）が24日発表する週間の米石油在庫統計で需要動向を見たいとして、国内市場でも様子見の雰囲気も強いという。

白金も下げ幅を拡大している。11時30分時点で中心限月の2025年6月物は同37円安い1グラム4763円だった。寄り付きは10円安だった。中国景気の減速懸念を背景に産業用需要が鈍るとの見方が根強いほか、外国為替市場での円相場上昇を背景に、円建ての国内白金先物に売りが出ている。一時は4746円まで下落し、中心限月として5月上旬以来の安値をつけた。



レゾナックHD、石化事業分社化へ準備会社 8月設立

レゾナック・ホールディングス（HD）は23日、石油化学事業のスピノフ（分離・独立）に向けた分割準備会社を8月1日に設立すると発表した。2月に方針を発表した基礎化学品のエチレンや派生製品などを生産する大分市内のコンビナート事業の分離に向けた準備を進める。分社化は2025年1月の予定で、2～3年後の上場を目指す。

新会社名は「クラサケミカル」で、社長にはレゾナックの福田浩嗣業務執行役が就く。今後は新会社の株式の2割弱をレゾナックHDが保有する想定だ。

23年度の税制改正で始まった「パーシャル・スピノフ」という事業再編の仕組みを使い、実質非課税で分離する。福田業務執行役は「石油化学の専業で分社化し上場するという試みは知る限り初めてだ。安定供給で社会に貢献する使命感で取り組む」と話した。

中国の増産などで市況が悪化した影響で国内のエチレン設備の稼働は低迷し、化学業界では他社連携の動きが活発化している。三井化学と出光興産は千葉県にある生産拠点を集約し出光の設備を27年度をめどに止める予定のほか、旭化成など3社は大阪府と岡山県にある設備で生産体制の最適化も踏まえた検討を進めている。

レゾナックは他社との連携については現時点では考えていないとするが、「スピノフよりも大きなメリットをもたらす提案があれば検討することは否定しない」（レゾナックHDの真岡朋光取締役常務執行役員）とした。

大分の生産設備の稼働率は国内平均より高く、過去10年は黒字を維持している。23年12月期の石化事業の売上高は3163億円、営業利益は87億円だった。現在、新会社の成長戦略を策定中で、エチレン生産設備の競争力強化に加え、派生する誘導品の高付加価値化や同業他社・顧客との協業なども視野に入れる。



サウジ、シェールガス開発 16兆円、低炭素社会に備え

世界最大の原油輸出国サウジアラビアは、国内でシェールガスの開発に乗り出す。1000億ドル（約16兆円）以上を投資し、2030年に米国とロシアに次ぐ世界3位の天然ガス大国を目指す。温暖化ガス排出量の少ない天然ガスの生産体制を強化し、低炭素社会に備える。

サウジとUAEは天然ガス開発を強化する



シェールガスは頁岩（けつがん）層から採取する天然ガス。サウジは東部のジャフラ・ガス田を開発する。岩手県よりやや大きい面積で、確認埋蔵量は229兆立方フィートとシェールガス田として中東で最大規模を誇る。日本の年間LNG輸入量の約70年分に匹敵する。

国有サウジアラムコは、ジャフラで少なくとも累計1000億ドルを投資するとの見通しを示す。6月30日には約250億ドルを投じてプラント建設などを発注した。25年に生産を開始する。

同プロジェクトは、米国を除いては最大のシェールガス開発となる見込みだ。米国では2000年代に「シェール革命」が起き、短期間で世界最大のガス生産国に駆け上がった。

米国では水平掘削や水圧破碎などの技術が発達し、地層に閉じ込められたシェールガスを比較的低コストで取り出せるようになった。サウジも石油サービス会社を活用して、こうした技術を導入する。「サウジで新たなシェール革命が起きる」とアラムコの Amin Nasser 最高経営責任者は期待を込める。

ジャフラ以外での開発も進める。アラブメディアによると、サウジ全体のガス生産量を、30年に21年比で6割増の日量213億立方フィート（LNG換算で年約1億5000万トン）とする。実現すれば世界3位のガス生産国となる見込みだ。

生産したガスは国内の火力発電などで消費する。サウジの発電はガス火力が6割で、石油火力が4割。30年に発電をガス火力と再生可能エネルギーで賄い、二酸化炭素（CO₂）の排出量が多い石油火力をなくす方針。将来はLNGの輸出も検討する。



このほか、次世代エネルギーのアンモニアをガスから製造し、低炭素の「ブルーアンモニア」として日本や韓国に輸出する計画だ。

シェールガスへのシフトに伴い、サウジは1月に原油生産能力の拡張計画を停止すると発表した。27年までに日量100万バレル増の同1300万バレルに拡大する計画だった。24～28年に400億ドルの投資額が浮き、ガス開発などに振り向ける。

米豪の液化天然ガス（LNG）生産・取引にも進出する。3月、オーストラリアのLNG権益を持つ米ミッドオーシャン・エナジーに5億ドル出資する手続きを完了した。6月には米国の2つのLNG事業から年計650万トン調達する長期契約に相次いで合意した。米国のLNGを欧州・アジアに販売する。

「ガスシフト」を進める中東の産油国はサウジだけではない。

アラブ首長国連邦（UAE）はLNG生産を拡大する。アブダビ国営石油（ADNOC）は6月、国内の新規LNGプラントへの投資を決めた。建設費は55億ドルで稼働すれば同国のLNG生産能力は2倍以上の年計1500万トン程度になる。

5月にはアフリカ東部モザンビークのLNG権益10%の取得を決めた。すべてのプラント計画が完成すれば年産能力約2500万トンとなる大型事業だ。加えて、同月には米国の年産約1760万トンのLNG事業の権益約12%も取得した。

サウジやUAEがガス開発に注力する背景には、エネルギー外交を推進する狙いもある。ガスは脱炭素を追い風に需要が高まっており、生産量の多い米国やロシア、カタールは国際社会で影響力を強めている。英BPの見通しによると世界が「排出実質ゼロ」を達成した場合、石油需要は50年に22年比7割減る一方、ガスは5割減にとどまる。環境規制などで現状の傾向が続いた場合、石油需要は2割減少する半面、ガスは2割増加する。



8月潤滑油仕切り値上げ 4月以降 累計2万600円～2万6400円上昇

8月潤滑油仕切り値上げ

グループⅢ 未適用品 5100円
適用品 5700円

4月以降 累計2万600円～2万6400円上昇

ENEOS

特約店筋によると、ENEOSは、8月1日出荷分から適用する

潤滑油・グリースの月次価格を引き上げる。値上げは6月以来、2カ月ぶりになる。ENEOSは、8月1日のグループⅢ適用商品のコスト変動を7月比(△)5100円値上げする。基準に毎月価格改定する。これにしたがい、8月分はベースオイル00円上昇したが、前月のグループⅢ適用商品のコスト変動

分が2400円増と3000円に満たなかったため、この分を加えて5100円の値上げになるという。グループⅢ未適用商品は5700円値上げする。コストは6700円増加したが、前月改定時に1000円低下していたことから、この分を差し引いて5700円の値上げになるかたちだ。

コウモレックス(旧アロマオイル)は、経4300円引き上げる。コストは5000円上昇。前月のコスト変動が700円低下していたので4300円の値上げとしている。食品機械の潤滑剤などに使用するハイホワイトは、7100円値上げだった。8300円のコスト増だったが、前月の低下分1200円を差し引いて7100円引き上げる。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	6/11～6/17	82.81	3.43	158.25	1.18	82.42	4.00
	6/18～6/24	85.24	2.43	159.57	1.32	85.55	3.13
	6/25～7/1	85.98	0.74	161.48	1.91	87.32	1.77
	7/2～7/8	87.57	1.59	162.35	0.87	89.42	2.10
	7/9～7/15	86.01	▲1.56	161.84	▲0.51	87.55	▲1.87
	7/16～7/22	84.77	▲1.24	158.58	▲3.26	84.55	▲3.00
水曜日～ 火曜日	6/12～6/18	82.92	2.99	158.34	1.09	82.58	3.53
	6/19～6/25	85.74	2.82	159.93	1.59	86.24	3.66
	6/26～7/2	86.02	0.28	161.91	1.98	87.59	1.35
	7/3～7/9	87.46	1.44	162.19	0.28	89.21	1.62
	7/10～7/16	85.86	▲1.60	161.21	▲0.98	87.05	▲2.16
	7/17～7/23	84.49	▲1.37	158.24	▲2.97	84.09	▲2.96

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート